

東北大学工学部オープンキャンパス

女子学生のためのミニフォーラム
「工学にかける私の夢」

特別企画 女子学生座談会



東北大学を志望した理由は？

森： 小さいころから宇宙に興味を持っており、仕事にしたいと思っていたので、宇宙について学べる工学部の機械系を受験しました。理学部も選択肢として考えたのですが、ものづくりに興味があったので工学部を選択しました。

三輪： 高校では理系科目が好きで、航空分野を学べる大学を目指そうと思いました。オープンキャンパスで、留学支援が充実していると聞き、東北大学に入学したいと思いました。大学院では、医工学研究科に進み、医療機器の応用の楽しさを感じ研究をしています。

佐藤： 両親が東北地方の出身で、馴染みある土地であることに加え、アカデミックな東北大学に強く惹かれたため志望しました。

米山： 高校生の頃、塾の先生に「理系なら東北大学が良い」と言われたことがきっかけです。また、実際に大学を訪れ、社会に役立つものづくりの仕事に携わりたいという思いから工学部を志望しました。

佐々木： 化学が好きで、ものづくりをしたかったため、工学部化学バイオ工学科を志望しました。

松田： 高校生の頃、オープンキャンパスに参加して、先輩たちの研究紹介を聞いて、自分もこの一員になりたいと思いました。最先端の研究ができることも魅力的です。

渡邊： 実家から近く、AO入試制度を魅力的と感じました。また、オープンキャンパスで建築・社会環境工学科での生活をリアルに想像でき、志望しました。

将来の夢は？

森： 小さい頃からずっと宇宙飛行士になることが夢でした。今はその夢を持ちながら、まずは宇宙開発に携わる仕事をし、自分が作った構造物を宇宙に持っていきたいです。

三輪： 自分の開発した医療機器が認可されて実際にそれを誰かに使用してもらい、役に立っていることを実感できるような仕事をしたいということが、今の私の夢です。

佐藤： まだ、分野は絞り込めていませんが、メーカーに就職し自分が開発に携わったデバイスが人々の手元に届くところを実際に見ることが私の夢です。

米山： 化学メーカーに就職が決まっており、生産ラインの効率化、環境にやさしいプロセスづくりなどに実際に携わっていきたいです。

佐々木： まだ、研究室に配属されたばかりで明確には決まっていますが、技術者として工場の生産ラインを支えたいです。

松田： 理系の知識を生かしながらお客さんと会社を結び付けられるような販売拡大を図る職種につきたいと考えています。家庭と仕事を両立させながら女性としてリーダーになりたいと思います。

渡邊： いつか自分の設計した空間が実際に実現し、その空間を体験する人が温かい気持ちを持ってもらえることです。

宇宙構造物の研究をしています



森 瑛梨奈さん
工学部
機械知能・航空工学科
学部4年
岩手県立盛岡第一高等学校

半導体を使って人工網膜を作製する研究をしています



三輪 侑紀さん
医工学研究科
医工学専攻
修士1年
宮城県仙台二華高等学校

脳の温度を光を用いて測定するデバイスの開発をしています



佐藤 碧丹さん
工学研究科
応用物理学専攻
修士1年
神奈川県立厚木高等学校

環境に優しい塗料の開発の研究をしています



米山 知里さん
工学研究科
化学工学専攻
修士2年
新潟県立三条高等学校

高温高圧領域におけるアルコール水溶液の構造解析をしています



佐々木 結衣さん
工学部
化学・バイオ工学科
学部4年
岩手県立盛岡第三高等学校



工学部を目指すみなさんへ

森： 東北大学の工学部は、幅広いことについて深く学べる、とても魅力的な場所だと思います。研究環境も非常に整っています。学科の中でも幅広い分野の研究を行っているので、入学後にゆっくり希望の分野について考えることが可能です。ものづくりに少しでも興味があれば工学部はとてもおすすめです。

大学生活、どんなことがあるの？

森： 工学部もですが、機械系は特に女子学生へのサポートが手厚く、入学してすぐに女子学生だけの交流会も開催していただいだけ、女友達ができやすいです。

三輪： 仙台は気候的にも規模的にも住みやすい街だと思います。地下鉄ができたことでアクセスも便利になってきました。留年せずに留学できるカリキュラムもあり、私は、デンマークに留学をしました。受け入れ大学や支援制度は十分に整っていると思います。

佐藤： アルバイトを通じて、東北大学以外の全く環境の異なる同世代と交流することも良い刺激になります。また、様々なイベントの業務経験なども多くの点で私の糧になっています。

米山： 実験日は夕方まで作業をしますが、昼食は研究室のメンバーと一緒にとり、オンとオフを切り替えて取り組んでいます。研究活動を通じて、自分の考えをアウトプットする力が身についたと感じています。

佐々木： 日々研究ですが、旅行に行くなど息抜きでしっかり遊びます！友人とは一緒にご飯を食べ、勉強で分からない点を聞き合うなどして過ごしています。

松田： マテリアル・開発系の同期の女子で集まる「マテ女会」を定期的で開催しています。授業や研究の話から日常生活の話まで、いつも盛り上がっています。また、週末にカメラを片手にドライブをして東北のきれいな景色をめぐっています。

渡邊： 大学生活は思っていたより忙しいです。女子は少ないですが、縦の繋がりが強いので心強いです。建設会社で模型を作るアルバイトをしています。

三輪： 大学に入って何をしたいか、さらにその先で何をしたいか、あるいはどんな勉強が好きなのかということを考えながら進路を考えることが大事なと、思います。

佐藤： 将来の選択肢も可能性もたくさんあるものの、選ぶための材料が足りてない時期が中高生だと思います。一度の決断が全てという訳ではないと私は思っており、いつでも変えられるので、自分自身が変わるような挑戦を皆さんには沢山して欲しいと思います！

米山： 「百聞は一見に如かず」、きっかけは誰かのアドバイスであったとしても、自分の目で確かめることを大切にしてください。オープンキャンパスを通して自分の目で見て感じたことを一番に、これからの自分の進路に役立ててほしいと思います。

佐々木： 大学は様々なことに挑戦できる場だと思います。勉強や研究だけでなく、趣味やサークル、アルバイト、留学にと楽しいことがたくさんあり、自分の可能性を広げることができると思います！

松田： 今は、理系女子にとって有利な環境であるため、ぜひ、この機会にやりたいことを見つけて、挑戦して欲しいです。やりたいことがあればそれが目標になって勉強も一生懸命できると思うので、自分にできる、できないと決めつけるのではなく、面白いと思ったら挑戦して欲しいと思います。

渡邊： 高校までの知識は必ず土台となって自分を高めてくれます。そのため、大学入学の先にある自分のために、勉強で妥協しないことが大切であると感じます。好きなことをしっかり見つけてやり続ける粘り強さを持ってほしいと思います。

自動車用モータの磁石材料の研究をしています



松田 瑠香 さん
工学研究科
知能デバイス材料学専攻
修士2年
秋田県立秋田南高等学校

都市と建築空間の関係性について研究しています



渡邊 里沙 さん
工学研究科
都市・建築学専攻
修士1年
宮城県仙台第二高等学校



田中 真美 教授
医工学研究科/
工学研究科
ALicE 室長



有働 恵子 准教授
災害科学国際研究所
ALicE 副室長

東北大学工学系
女性研究者育成支援推進室
(ALicE)



ALicE 公式キャラクター
「ずんだぬき」

ALicE Newsletter 2019. Special Issue.